

# ニッポンの肉食 マタギから食肉処理場まで

獣は資源かそれとも害悪か？  
地域や歴史的背景で異なる価値観

## マタギと熊



- 阿仁マタギにとって獣は大切な資源である。
- 特に熊(ツキノワグマ)は山の神からの授かりもの
- 肉、骨、内臓、血、脂、毛皮、全てが貴重な商品であり山里に経済的メリットをもたらした。
- 中でも熊の胆(胆のう)は金と同等の価値を生み出す宝であった。







一頭の熊はただの肉に非ず。

集落の大切な宝でありマタギとしてのアイデンティティーの一部である。

自分たちが何者であるのか？この地域でどう生きるべきなのか？自問自答させる材料でも熊はあった。

- 2017年の秋田県における熊の捕殺数は推定生息数の約6割、817頭。
- 熊による死者一名、負傷者5名

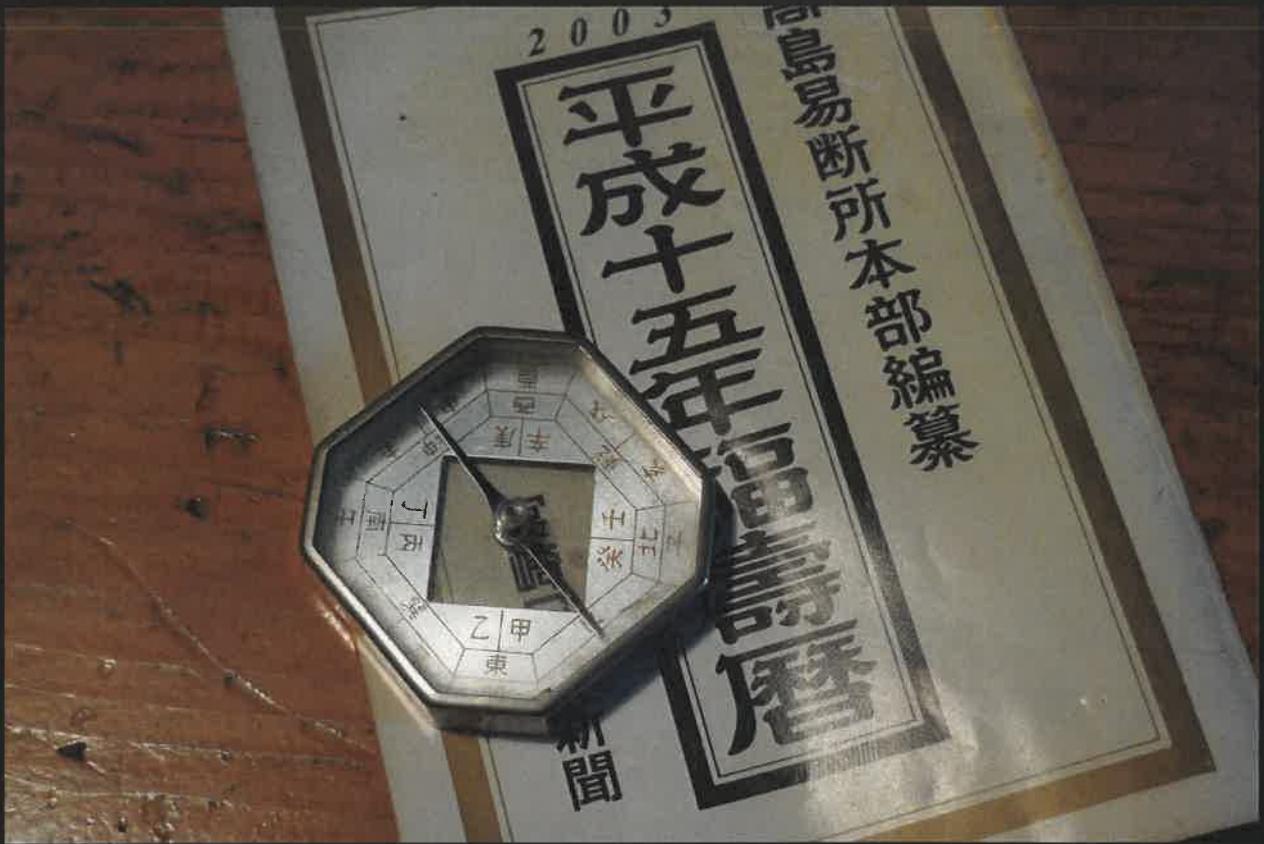
2016年

秋田県内の交通事死者	54名
負傷者	2691名

## 宮崎県椎葉村



- 自然環境の差で狙う獲物は熊ではなく猪が中心である。
- 山の神に対する儀式等、マタギとの類似性も多い。
- 柳田国男が民俗学の発想を得たと言われる宮崎県の椎葉村は日本で最も古い狩猟文化を残していると思われる。







## 現代の狩猟

日本各地で鹿、猪が急激に増えたのはこの30年以内である。

有害駆除として通年で狩猟が行われている地域が多い。

有効活用が各地で試行錯誤中である。

# 現代の猪垣





## 狩猟圧力とは何か？

- 捕殺した物に圧力は掛からない。
- 確実に仕留めてこそ被害は減る。
- 熊のお仕置きに効果はあるのか？
- 丹沢の状況

# 通年でほぼ毎週猟



## 畜産肉

牛 約三年

豚 約半年

鶏 約二か月





